

# 県立高校入試改善検討委員会（第4回）

令和4年5月18日（水）

14：00～16：00

岩手県民会館第1会議室

## 次 第

1 開 会

2 岩手県教育委員会あいさつ

3 委員長あいさつ

4 委員紹介

5 議 題

（1）一般入試及び各高校の特色を活かした入試について

（2）入試日程について

6 その他

7 閉 会

---

### 【資料】

資料1 I 県立高校入試改善の現状と課題、検討の視点等

II 県立高校入試改善の論点と方向性

資料2 県立高校入試改善の論点と方向性（概要図）

資料3 入試日程

資料4 提言について

### 【参考資料】

参考資料1 I 現行の一般入試

II 現行の推薦入試

III 全国の入試制度（令和3年度、全日制）

参考資料2 青森、宮城、福島県の特色選抜に係る志願者等への事前提示資料

参考資料3 平成27年度以降の県立高校入試の改善について（提言）

（県立高校入試改善検討委員会、平成23年12月12日）

## 県立高校入試改善検討委員会設置要綱

### (設置)

第1 社会や生徒の変化に対応するとともに各県立高校の教育活動の充実に向けたより良い入学者選抜制度について在り方を含め検討するため、県立高校入試改善検討委員会(以下「委員会」という。)を置く。

### (所掌事項)

第2 委員会は、次に掲げる事項について検討を行い、岩手県教育委員会教育長(以下「教育長」という。)に提言を行う。

- (1) 入学者選抜における選考方法、日程
- (2) 各県立高等学校各学科の特色を生かした選抜方法
- (3) 入学者選抜における事務処理方法
- (4) その他県立高校入学者選抜に係る事項

### (組織)

第3 委員会は、委員16名以内をもって組織する。

2 委員は、次の各号に掲げる者のうちから教育長が委嘱する。

- (1) 学識経験者
- (2) 産業界等関係者
- (3) 県立学校及び中学校関係者
- (4) P T A関係者
- (5) その他委員として適当と認められる者

### (任期)

第4 委員の任期は、2年以内とする。

### (委員長、副委員長)

第5 委員会には、委員長及び副委員長各1名を置く。

- 2 委員長は、委員の互選により選出する。
- 3 副委員長は、委員長が指名する。
- 4 委員長は、会務を総理し、会議の議長となる。
- 5 委員長に事故あるときは、副委員長がその職務を代理する。

### (会議の招集)

第6 委員会は、必要に応じて委員長が招集する。

### (庶務)

第7 委員会の庶務は、岩手県教育委員会事務局学校教育室において処理する。

### 附 則

この要綱は、令和3年7月13日から令和4年12月31日まで施行する。

## 県立高校入試改善検討委員会 委員

No.	所属・役職	氏名	備考
1	富士大学入試部長	佐々木 修 一	委員長
2	岩手大学人文社会科学部教授	浅 沼 道 成	副委員長
3	岩手県産業教育振興会会長 株式会社IBC岩手放送代表取締役社長	鎌 田 英 樹	欠席
4	県北ものづくり産業ネットワーク代表 株式会社東亜エレクトロニクス代表取締役社長	小山田 紳 也	
5	認定NPO法人カタリバディレクター	菅 野 祐 太	
6	岩手県高等学校長協会会長 盛岡第一高等学校長	梅 津 久仁宏	
7	黒沢尻工業高等学校長	佐々木 直 美	
8	杜陵高等学校長	高 橋 正 浩	
9	岩手県中学校長会会長 盛岡市立上田中学校長	佐 野 理	代理出席
10	岩手県中学校体育連盟会長 盛岡市立下小路中学校長	橋 場 中 士	代理出席
11	岩手県PTA連合会会長	岩 舘 智 子	
12	岩手県高等学校PTA連合会会長	大 柏 良	代理出席
13	岩手県教職員組合中央執行副委員長	八重樫 千 晶	
14	岩手県高等学校教職員組合執行委員長	村 上 智加子	
15	岩手県市町村教育委員会協議会会長 盛岡市教育委員会教育長	多 田 英 史	代理出席
16	陸前高田市教育委員会教育長	山 田 市 雄	

## 事務局

No.	所属・役職	氏名
1	教育長	佐藤 博
2	教育局長	佐藤 一男
3	教育次長兼学校教育室長	高橋 一佳
4	学校教育室 学校教育企画監	度會 友哉
5	学校教育室 首席指導主事兼義務教育課長	三浦 隆
6	学校教育室 首席指導主事兼高校教育課長	中村 智和
7	学校教育室 高校教育担当 主任指導主事	菊地 健
8	学校教育室 高校教育担当 主任指導主事	砂沢 剛
9	学校教育室 高校教育担当 指導主事	小原 博
10	学校教育室 高校教育担当 指導主事	菊池 敏

# I 県立高校入試改善の現状と課題、検討の視点等

## 1 県立高校入試の目的

- (1) 生徒一人ひとりが、その多様な能力・適性や意欲・関心に基づいて自分の進路希望を実現するため適切な高校が選択できること。
- (2) 各県立高校が特色づくりを進めてその特色にふさわしい生徒を選抜し生徒の成長を支援すること。

## 2 入試改善検討の視点

- (1) 現行の入試制度について経緯や統計的なデータに基づいて検証し、成果や課題を踏まえた検討を行う。
- (2) 生徒、中学校及び高校教員の入試に係る負担が軽減され、誰からも分かりやすい制度となるよう検討を行う。
- (3) 生徒や保護者が、各高校の特色や入試での特徴を十分に理解した上で適切に志望校を決定できるように、中学校からの意見も踏まえて検討を行う。
- (4) 入試制度の全体や関係者に与える影響についても考慮しながら検討を行う。

## 3 現行の入試制度の現状

### (1) 推薦入試

- ・スポーツ、文化・芸術等において顕著な実績を持つ生徒、将来の職業選択や社会貢献に強い意欲を持っている生徒について、それぞれの能力・適性や意欲・関心に基づく高校の選択を行うことが可能となる。
- ・各高校における部活動や生徒会活動等の活性化に寄与し、各高校の特色ある学校づくりを進めることが可能となる。
- ・合格者に対して学力調査を行うことにより、中学校において推薦入試合格後に学力調査を目標の一つとして学習指導が行われることで、基礎学力の定着や学習意欲の向上を図ることが可能となる。

### (2) 一般入試

- ・選抜方法について、各高校でABC選考の割合の決定、適性検査の実施、傾斜配点などにより、各学科（学系・コース）の特性に応じた選抜を行うことが可能となる。
- ・志願者に対して、面接を実施することにより、それぞれの受検者の意欲や関心・態度を評価することが可能となる。

## 4 現行の入試制度の課題

【県内中学校及び県立高校を対象に令和3年6月したアンケート調査から】

### (1) 推薦入試

- ・各高校が示す推薦基準について、生徒及び中学校にとって分かりづらく、中学校ごとに志願者を推薦する基準が異なる場合があるとの指摘がある。
- ・部活動、生徒会活動、ボランティア活動等の実績を評価しているが、義務教育段階における多様な学びにより受検生が身に付けた能力を適切に評価すべきとの指摘がある。
- ・推薦入試制度そのものの廃止や大幅な変更も含めて検討すべきとの指摘がある。

(2) 一般入試

- ・各高校の選抜方法について、複雑で分かりづらいとの指摘がある。
- ・各高校の特色を、より選抜方法に生かせるように見直すべきとの指摘がある。
- ・全受検者に対して実施している面接は、事前提出書類の活用を含め、1人当たりの面接時間の確保の面から十分とは言えないとの指摘がある。

(3) 二次募集

- ・合格者発表が3月末となっているため、合格者の入学準備期間が短く、年度末の入試に係る日程を見直すべきとの指摘がある。

(4) 入試日程

- ・志願者だけでなく、中学校及び高校の授業や行事にも影響があることから、入試期間の短縮や検査日の固定等が必要との指摘がある。
- ・中学校及び高校において、3月に、高校入試の対応がなく、落ち着いて授業が実施できる日を増やすべきとの指摘がある。

(5) 手続関係

- ・生徒、中学校が事前提出する書類について、廃止も含めた見直しをすべきとの指摘があるものがある。

## Ⅱ 県立高校入試改善の論点と方向性

### 【既に意見集約された論点】

〔論点1〕一般入試について、各高等学校の魅力や特色を活かしたあり方を、制度の分かりやすさも踏まえて検討する。

《方向性》

- ・現行制度では、定員の30%について「学力検査：調査書等」の比率を各高校で決定することとしているが、志願倍率が1倍を下回っていることもあり、各高校が多様な選抜を実施できない状況にあり、各高校の特色が活かされた入試となっていない。また、現在の選抜方法は複雑で分かりづらく、誰からも分かりやすくすべきだとの指摘もある。

選抜方法について、現行制度では「学力検査：調査書等」の比率は、定員の70%を全県統一で「5：5」とし、残る30%を各高校で決定することとしているが、各高校・学科の特色がより反映できるように、定員のすべてについて「学力検査：調査書等」の比率を各高校が決定できるように改善を求める。

- ・現行制度では、全受検者に対して面接を実施しているが、受検者1人当りの時間を十分に確保できない状況にあり、有効な選抜資料となっていない。

面接について、現行制度のように学力検査にあわせて一律に実施することとせず、必要に応じて実施するように改善を求める。

〔論点2〕現行の推薦入試について見直し、生徒の多様な学びに対応し、各高等学校の魅力や特色を活かした入試としてのあり方を検討する（出願の基準、応募資格、検査内容、名称等）。

《方向性》

- ・現行制度では、部活動等の実績（大会の成績）が一定以上であることを出願の要件とすることや実績を点数化しているが、出願できる生徒が一部に限定されることから不公平であるとの指摘があり、部活動参加の任意化、生徒の主體的な部活動参加が進められている状況を踏まえた見直しが求められている。

生徒が日常的な学習や活動で身につけた多様な資質・能力を評価するよう改善を求める。

なお、各高校が評価する対象は、生徒が中学校の授業等で身につけたものに限定せず、部活動や学校外での活動等も含むこととし、生徒がこれまでの多様な活動で身につけた資質・能力を評価するべきである。

- ・現行制度では、各高校の推薦基準が分かりづらいとの指摘がある。また、令和3年10月に県教育委員会は「いわての高校魅力化グランドデザイン for2031」を策定し、令和4年度中に各県立高校は「育成を目指す資質・能力に関する方針」、「教育課程の編成及び実施に関する方針」及び「入学者の受入れに関する方針」（「三つの方針」（スクール・ポリシー））を策定、公表することとなっている。各高校が求める像を踏まえて、各高校がそれぞれ独自の観点による多様な選抜を実施できるように見直しが求められている。

各高校が独自の観点による検査や選抜を実施できるように、現行の評価項目（調査書（各教科の評定）、面接、作文又は小論文、適性検査）を弾力化し多様な検査を実施できるように改善を求める。

- ・現行制度では、中学校長が被推薦者を決定することとしているが、各高校が求める生徒像にもとづいて、生徒がより主体的に志願先高校を決定できるように、中学校長の推薦を不要とすべきとの指摘がある。

生徒が志願先高校を主体的に選択できるようにするため、中学校長の推薦は不要とし、出願は生徒の自己推薦によって行うように改善を求める。また、生徒が出願の参考にできるように、各高校は求める生徒像を分かりやすく示すべきである。

※ 推薦入試の名称は、「特色入試」など選抜の実施形態を表現するのに相応しい名称に変更すべきではないか。

## 【今回の会議で意見を集約する論点】

**【論点3】入試日程について、中学校及び高等学校の負担軽減も図りながら、より短期間となるように検討する。**

《方向性》

- ・現行制度では1月下旬に推薦入試の検査を実施しているが、生徒がより時間をかけて進路を選択できるように、一般入試の検査とあわせて3月上旬の2日間で実施すべきではないか。
- ・検査日は、現行制度の一般入試の検査日から可能な限り早め、年度内に終了する日程とすべきではないか。



県立高校入試の目的

- ①生徒一人ひとりが、その多様な能力・適性や意欲・関心に基づいて自分の進路希望を実現するため適切な高校が選択できること。
- ②各県立高校が特色づくりを進めてその特色にふさわしい生徒を選抜し生徒の成長を支援すること。

中・高へのアンケート調査（令和3年6月）で把握した課題

- ・一般入試：部分的な見直し（学校の特色を活かした選抜、面接）
- ・推薦入試：全般的な見直し
- ・入試日程：期間短縮、年度末日程の見直し

県立高校入試を取り巻く状況の変化

- ・少子化による志願倍率の低下
- ・中学・高校の部活動のあり方の見直し
- ・高校での「三つの方針」（スクール・ポリシー）の策定・公表

改善すべき課題

一般入試	①各高校の特色が活かされた入試となっていない。 ②面接が有効な選抜資料となっていない。
推薦入試	③部活動の参加の任意化、生徒の主体的な参加の流れを踏まえて、 <b>部活動等の実績評価を見直す</b> べき。 ④各高校が求める <b>生徒像</b> を踏まえて、各高校がそれぞれ独自の観点による多様な選抜を実施できるようにすべき。
入試日程	⑤生徒がより時間をかけて進路を選択できるようにすべき。 ⑥年度末の入学準備の期間が確保されるようにすべき。

検討の視点（キーワード） 生徒・保護者にとって分かりやすい、各高校の魅力や特色、小中学校等への影響、教員の負担軽減

提言の方向性

一般入試

- ・「学力検査：調査書等」の比率を、定員のすべてについて、各高校が定める。（課題の①）
- ・面接は、学力検査とあわせての実施とせず、各高校の特色を活かした入試で必要に応じて実施する。（課題の②④）

推薦入試

- ・生徒が日常的な学習や活動で身につけた多様な資質・能力を評価する。（課題の③）  
※ 「日常的な学習や活動」とは、中学校の授業等に限らず、部活動や学校外での活動等を含む。
- ・各高校の特色を活かした入試となるように、**現行の評価項目を弾力化し、各高校が多様な独自検査を実施**できるようにする。（課題の④）
- ・中学校長の推薦は不要とし、**自己推薦により出願**する。（課題の④）

論点

入試日程

- ・名称を「**特色入試**」などと**変更**すべきではないか。
- ・推薦入試の検査を一般入試の検査とあわせて、**3月上旬の2日間で実施**すべきではないか。（課題の⑤）
- ・一般入試の検査日を可能な限り早め、**年度内に終了する日程**とすべきではないか。（課題の⑥）

【参考】現行の入試制度

一般入試	評価項目 ※ 配点は、全県で統一	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学力検査500点</li> <li>・調査書等500点</li> <li>〔中学校の各教科の評定 面接 ※ 評価の観点は県が標準的な方法を示す 学校独自（作文又は小論文、実技）〕</li> </ul>
	選抜方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・まず、定員の70%を、配点どおりで選抜。</li> <li>・次に、定員の30%を、「学力検査：調査書等」の比率を各学校が定めて選抜。</li> </ul>
推薦入試	出願できる生徒	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各高校の推薦基準（スポーツ・文化活動等で優れた実績、将来の職業選択や社会貢献に強い意欲）を満たす生徒</li> <li>・中学校長の推薦を受けた生徒</li> </ul>
	評価項目 ※ 配点は、各高校で決定	<ul style="list-style-type: none"> <li>・調査書（中学校の各教科の評定）</li> <li>・面接 ※ 評価の観点は県が標準的な方法を示す</li> <li>・学校独自（作文又は小論文、適性検査）</li> <li>・実績（大会の成績等）</li> </ul>
入試日程	期間	1月上旬（推薦出願）～3月末（二次合格発表）
	検査日程	1月下旬に推薦入試1日、3月上旬に一般入試1日（3／8頃）

# 入試日程

## 1 全国の傾向（令和3年度入試）

### (1) 実施回数（二次募集は除く）

回数	都道府県数	備考
1回	12	一般入試と特色入試・推薦入試をあわせて実施。 (出願…1回、合格者発表…1回)
2回	33	一般入試と特色入試・推薦入試をそれぞれ異なる時期に実施。 (出願…複数回、合格者発表…複数回)
3回	2	

### (2) 実施時期

一般入試とは別に実施				一般入試と 同時に実施
1月		2月		
中旬	下旬	上旬	中旬	
2	6	24	4	

## 2 東北他県の傾向

### (1) 実施回数（令和4年度入試、秋田は令和5年度以降の入試）

回数	備考	県	検査日
1回	一般入試と特色入試をあわせて実施。 (出願…1回、合格者発表…1回)	青森、宮城、 秋田、福島	3月上旬
2回	一般入試と推薦入試をそれぞれ異なる時期に実施。 (出願…2回、合格者発表…2回)	山形	山形…2月上旬、3月上旬

※ 山形の推薦入試は、自己推薦で、普通科では実施しない。

### (2) 一般入試の検査日（令和2～4年度入試）

	3/3	3/4	3/5	3/6	3/7	3/8	3/9	3/10
R 2	0	1	2	0	0 (土)	0 (日)	0	2
R 3	1	1	1	0 (土)	0 (日)	0	2	1
R 4	1	1	0 (土)	0 (日)	0	2	0	1

・検査日の日付が3年とも同一日なのは、1県。

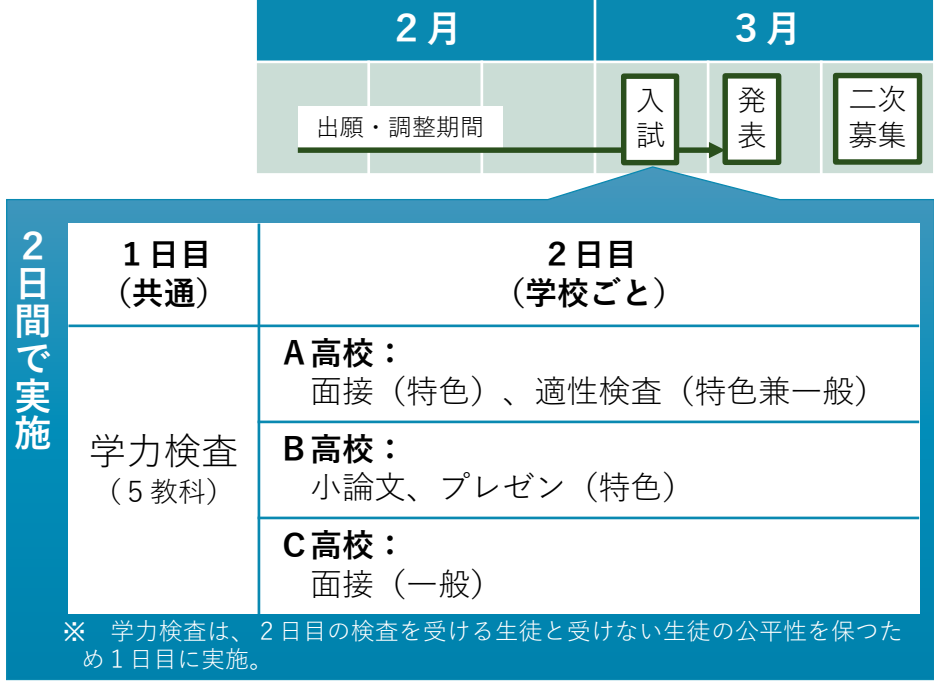
3 3月上旬に2日間でまとめて実施した場合の影響（現状との比較）

	メリット	デメリット
3月上旬に2日間でまとめて実施	<p>【志願者】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・特色入試を志願する生徒も、志願先高校の検討にこれまでよりも多くの時間をかけることが可能。</li> <li>・1日目、2日目ともゆとりがある時程で実施でき、負担が軽減。</li> </ul> <p>【中学校】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・入試期間の短縮により、落ち着いて授業できる日数の増加、入試に係る教員の負担軽減。</li> <li>・県立高校に志願する生徒の受検時期が一律となり、学習指導を行いやすい。</li> </ul> <p>【高校】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2日間となることで、一般入試でも多様な検査をゆとりがある時程での実施が可能。</li> <li>・入試期間の短縮により、落ち着いて授業できる日数の増加、入試に係る教員の負担軽減。</li> </ul>	<p>【志願者】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・複数の県立高校への出願不可。</li> <li>・2日間の受検のため、遠隔地からの受検のためには宿泊が必要。</li> </ul> <p>【中学校】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・入試日程の変更に伴って、生徒及び保護者への丁寧な対応が新たに発生。</li> </ul> <p>【高校】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・検査の実施準備は、現行よりも煩雑。</li> </ul>
現行どおり1月下旬、3月上旬に実施	<p>【志願者】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・入試日程に大きな変更がないため、分かりやすい。</li> <li>・1回目の選抜不合格者が、異なる高校に出願できる。</li> </ul> <p>【中学校】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・入試日程に大きな変更がないため、生徒及び保護者への新たな対応は生じない。</li> </ul> <p>【高校】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・検査の実施準備は、現行と同じ対応が可能。</li> </ul>	<p>【志願者】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・特色入試に志願する生徒が増加した場合、志願先高校の検討にこれまでよりも時間をかけられない生徒が増加することになる。</li> </ul> <p>【中学校】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・特色入試に多くの生徒が志願した場合、特色入試への出願準備に係る個別対応が増加することで、教員の負担増加。</li> <li>・入試日程の大きな変更はなく、落ち着いて授業できる日数の増加や入試に係る教員の負担軽減は見込めない。</li> </ul> <p>【高校】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・一般入試を1日で実施することから、多様な検査を実施する時間が限られ、各校の特色に応じた検査実施は限定的。</li> <li>・入試日程の大きな変更はなく、落ち着いて授業できる日数の増加や入試に係る教員の負担軽減は見込めない。</li> </ul>

【検査項目】	
<b>A 高校</b>	
一般	・学力検査 ・調査書 ・適性検査
特色	・面接 ・適性検査 ・調査書の 評定の一部
<b>B 高校</b>	
一般	・学力検査 ・調査書
特色	・小論文 ・プレゼン ・調査書の 評定の一部
<b>C 高校</b>	
一般	・学力検査 ・調査書 ・面接
特色	(なし)

3月上旬に2日間であらためて実施

【入試期間】 2月上旬～3月下旬



- 【メリット】**
- ・特色志願者は、志願先の検討にこれまでよりも時間をかけて検討できる。
  - ・1日目、2日目ともゆとりがある時程で実施でき、負担軽減。
  - ・落ち着いて授業できる日数の増加。
  - ・入試に係る教員の負担軽減。
- 【デメリット】**
- ・複数の県立高校への出願不可。
  - ・2日間の受検のため、遠隔地からの受検には宿泊が必要。

(青森、秋田、宮城、福島で実施)

現行どおり1月下旬、3月上旬に実施

【入試期間】 1月中旬～3月下旬



- 【メリット】**
- ・変更がないため、分かりやすい。
  - ・特色不合格者は、一般で異なる高校に出願可。
- 【デメリット】**
- ・特色志願者が増加した場合、志願先の検討にこれまでよりも時間をかけられない生徒が増加。
  - ・一般入試での各校の特色に応じた検査実施は限定的。
  - ・落ち着いて授業できる日数増加や教員の負担軽減は見込めない。

(山形で実施)

## ○ 提言までのスケジュール（令和4年度）

5月18日（水）	第4回委員会
8月24日（水）	第5回委員会
9月	提言を県教育委員会に提出

（参考）提言後のスケジュール

令和4年度	12月	パブリックコメント実施
	1月	新入試制度の決定、公表
令和5年度	各高校が求める生徒像や選抜方法に係る資料を仮作成し、公表	
令和6年度	令和7年度を新入試制度で実施	

## ○ 提言の構成

## Ⅰ 現行入試制度の概要

- 1 これまでの経緯
- 2 選抜方法

## Ⅱ 現行入試制度の成果と課題

- 1 成果
- 2 課題

## Ⅲ 令和7年度以降の県立高校入試に向けた改善

- 1 改善の方向性
- 2 一般入試について
- 3 推薦入試について
- 4 その他（入試日程について）